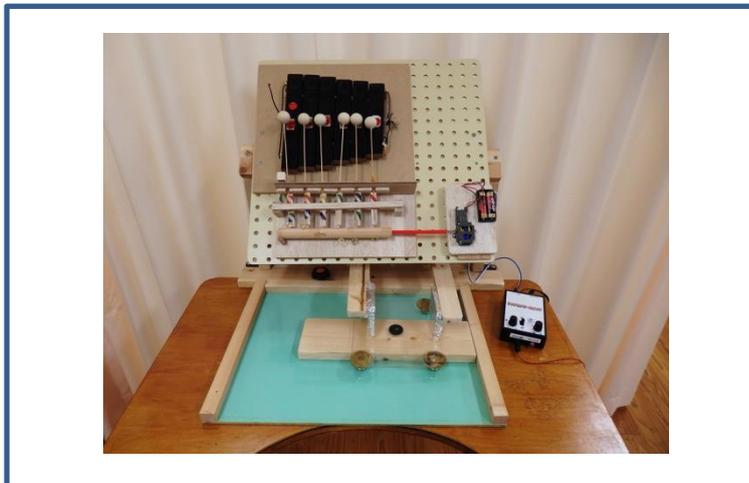


<図・写真>



<材料・製作方法等>

<材料>

木琴，木材（板，断面が半円の棒，球，など），ヒートン，モーター（シングルギアボックス使用），電池ボックス，ケーブル，BDアダプター

<製作方法>（楽器の部分のみ）

- 木琴をばらし，必要な鍵盤を並べて固定する。マレット部の製作。
- シングルギアボックス（モーター一部）の組み立て。電池ボックスとの接続。
- モーター中心から伸ばした棒を，断面が半円の棒で挟み，固定。マレットに当てるためのヒートンを付ける。（書籍に掲載されていたものを元に，自分で製作できるようアレンジ）

<ねらい>

- 楽器を見たり音を聴いたりしながら，スイッチ操作で演奏することができるようにする。
- 自分の力だけでは演奏の難しい楽器に取り組む機会を増やすことができるようにする。
- 楽器の演奏を経験することで，その楽器の音を覚えたり，好きになったりしてほしい。

<指導方法・留意点等>

- 「自分の番」を意識し過ぎたり，演奏に集中し過ぎたりすることで，体に緊張が入ってしまうことが多かったので，教師とのコミュニケーションや称賛で気分転換を図りながら指導した。
- 「せーの」などの合図により，上肢を動かすことを促した。

<指導経過・成果・課題・展望等>

<指導経過>

- 学習用のテーブルに木琴マシーンを置いたところ，視界に入らない位置であるため，楽器の動きを見ながら演奏することは難しかった。
- 木琴が視界に入るようにするため，学習用テーブルに取り付けられる書見台のようなものを作っていただいた。また，タッチセンサースイッチ用のアタッチメントを作っていただいたことで，小さな動きを演奏に生かしやすくなった。このことにより，教師の言葉掛けで上肢を動かそうとする気持ちにつながり，演奏ができるようになった。
- 演奏ができて，教師からの称賛を受けることで，笑顔を見せるようになった。

<成果>

- 次の題材の授業で木琴の音を聴いた際に，大喜びする様子が見られた。この経験で，「私が演奏した楽器だ！」とか，「好きな音だ！」という気持ちにつながったのであればいいと思う。

<展望>

- 子どもたち自らの働き掛けによって，その子どもに十分な音量の音が伝わる，という経験を少しでもしてほしい，また，いろいろな楽器でそのような経験を積んで，好きな楽器を増やしてほしいと思い，様々な楽器で試してきた。楽器そのものに十分に触れる機会を設けながら，スイッチを使用することも1つの可能性として加えることができたと思う。教師と一緒に演奏することの良さ，また，子どもたち自身の力で演奏することの良さ，それぞれを生かしながら，授業をしていけたらと思う。